

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------|
| 事業所番号 | 3591500081 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 熊毛清風会 | | |
| 事業所名 | グループホーム おかでら荘 | | |
| 所在地 | 周南市樋口字京田262番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年05月19日 | 評価結果市町受理日 | 平成26年12月4日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク | | |
| 所在地 | 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年6月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ 常に柔軟なである事 ○ 職員さんの思いを大切に職場環境:豊かな自然に囲まれ鳥の囀りが聞こえます。目の前には小学校があり元気な子供たちの声が聞こえます。近くに幼稚園があり交流も多々あります。 職員:毎月施設内研修にて職員さんの意思や利用者さんの思い等話す事により 職員間の信頼関係に繋げ 職員全員のモチベーションを高めています。

介護計画の中にリハビリ計画表をとり入れられ、リハビリ内容を全職員で共有され、日々の暮らしの中でできるリハビリに取り組み、毎日評価をされ、次の介護計画につなげておられます。日常の会話から利用者の桜の花見の思い出の場所を聞かれ、三日にわたり、3か所のそれぞれの利用者の思い出のある場所へ出かけられるなど、利用者一人ひとりの思いを大切にされた支援をしておられます。公民館祭り、盆踊り、小学校や幼稚園の運動会の見物や参加をされたり、お寺の花まつりのお接待や外食、買い物など外出して交流を楽しむ支援をされています。音楽療法、日本舞踊、紙芝居などのボランティアとの交流や毎週金曜日の手づくりカレーの日に近所の方が参加されるなど、地域との交流に取り組んでおられます。

さん

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|---------------------------------------|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 57 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 64 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 58 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 65 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 59 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 60 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 63 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「地域の人と一緒に住み慣れた町で生活する」という理念の元、地域との関係が深まるように取り組んでいる。月1回の施設内研修で理念を確認し全職員で共有し日々のケアに活かしている。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。毎月の内部研修で理念につながる内容の研修を行い共有して、理念に沿ったケアを全職員が心がけ、実践につなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 公民館祭り、幼稚園 小学校 運動会見学 散歩時 挨拶などで利用者の顔を覚えてもらっている。運営推進会議で近隣の方が役員となり相談員も近隣の方で地域とのかかわりが深まるように努め なじみ深い関係づくりをしている。近隣の方で毎週金曜日 来荘される方もおられる。 | 自治会の集まりや公民館祭り、盆踊りに参加している。幼稚園児や小学生との交流がある他、近所のお寺参りや散歩時に地域の人と挨拶を交わしている。事業所の手作りカレーの日や高校吹奏楽部の来訪時に近所の人々の来訪がある他、ボランティア(音楽療法、日本舞踊、マッサージなど)の来訪があり交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | イベントの際には近隣の方にも声をかけ事業所に気軽に来荘してもらっている。又 自治会にも何度か出向きグループホームに対する理解を深めてもらうよう努力している。 | / | / |
| 4 | (3) | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 全職員に施設内研修にて外部評価の意義を説明し、昨年度の評価 対する取り組みを昨年話し合い 現在までの評価まで話し合った。自己評価は正職員さん対象に実施して頂いた。 | 内部研修で評価の意義について全職員で理解し、正職員が自己評価を行い、管理者がまとめて作成したものを内部研修で報告して意見を聞いている。外部評価結果を受けて事故防止や災害対策などについて目標達成計画を立て、改善に向けて取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議にて、利用者の状況 行事の実施報告 評価の項目を含めた内容を、毎回話し合ってサービスの向上に努めている。 | 新たに地域協力委員や家族会の代表がメンバーに加わり2ヶ月に1回開催している。事業所の現状や活動報告、保健衛生、防災関係、外部評価結果などの報告し、意見交換している。地域協力委員から入居についての情報を得るなど、意見を活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 日頃から地域包括支援センターの方や、疑問に思った事は市役所の方に連絡を取りながら運営を行っている。運営推進会議をよりよい場とし協力関係の構築に努めている。 | 地域包括支援センターとは、運営推進会議で事業所の取り組みを伝えている他、市担当課とは、問題点や疑問点について電話で問い合わせをするなど、日頃から連絡を密にとり協力関係を築いている。 | |
| 7 | (6) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は行わず、無断外出の人に対する支援の見直し あり方を施設内研修の場を利用し話し合っている。傾向は職員間で伝わっているが、対策 対応に対する職員間での伝達 記録 見直し 意思統一を行うよう共有している。 | 内部研修で職員は理解し、不穏・徘徊対応分析表を活用し、対応方法を検討して、身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロック、ドラッグロックについても正しく理解している。玄関の施錠はしていない。 | |
| 8 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員さんの心のゆとりが無いと事故や虐待につながる事と 虐待が起きない様に 職員間で働いて楽しい職場づくり 職員間の声かけ協力体制を常日頃 心掛けるようしている。 | | |
| 9 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 今年の4月までに2名の方が成年後見制度を利用していた。(現在1名) 自立度等を職員さんに理解して頂いたうえでの支援に取り組んで頂くようにしている。 | | |
| 10 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | この度の介護給付費の改正の説明と同意書を頂いた。また契約の際には、契約書の内容に添って 十分に理解と納得を得てもらっている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者さんと御家族の面会を大切にし・相談・苦情等なんでも相談しやすいように契約書に利用料原則として持参払いとしています。苦情箱の設置も行っている。 | 相談や苦情の受付体制、処理手続きを定め家族に周知している。利用料納入時、面会時、電話、運営推進会議時などで家族の意見を聞いている。年1回の家族会で話し合い、意見を聞いている。苦情受付箱を設置している。運営に反映するまでの意見は出ていない。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員さんのモチベーションを高める為、気軽に話せる職場づくりを心掛けている。毎月10日施設内研修にて皆さんで自由に発言できる場を、設けて皆さんで考え反映している。 | 毎月の内部研修で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。利用者の状況に合わせて業務を見直し、リハビリについて全職員で統一して行えるようにリハビリ確認表を作成するなど、業務に反映させている。 | |
| 13 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている | できるだけ管理者も現場で共働しており、状況把握に努めている。地域貢献 ボランティア活動 子育て等推進している為、希望休を優先している。手当等の充実も はかっている。 | | |
| 14 | (9) | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | できるだけ管理者も現場で共働しており、状況把握に努めている。毎月10日 施設内研修をおこなっている。施設外での研修にも職員さんの現状と能力に見合った研修に参加している。 | 外部研修の情報を伝え、職員の希望や段階に応じて参加の機会を提供している。内部研修は、毎月1回管理者がその時に必要な内容の資料を準備して実施している。日常の業務の中で働きながら学べるように取り組んでいる。 | |
| 15 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者 管理者が他施設でのネットワークづくり勉強会等を通じサービスの質の向上に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 16 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所に至るまでに管理者が本人と面談し本人さんの要望や不安を取り除く事を行っている。御家族に見学等 事前に来てもらっている。 | | |
| 17 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前に御家族が不安に思われている事を把握し、後日 本人さん御家族と見学等 行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 困っている事の相談や、介護保険制度のしくみを説明し、ケアマネと連携をとり、速やかに対応している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事 洗濯畳み お菓子作り 料理の下ごしらえ等 協働してできるように取り組んでいる。 | | |
| 20 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 来荘された家族との面談、遠方でめったに会えない御家族には 誕生日月に案内文にて お気持ち(手紙・物)をしてもらっている。昨年 家族会も開催しました。 | | |
| 21 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居時、どなたでも面会はいつでも自由に入居可能を話し1度来られた方には、再度来られるようもてなし食事時であれば一緒に食事をしてもらったり近隣地域のイベントに参加している。 | 友人や知人の来訪がある他、お寺やお祭り、地域行事への参加、家族の希望で法事への参加や自宅への帰宅、馴染みの美容院の利用、手紙や年賀状を書いて出すなど、馴染みの関係継続の支援を行っている。 | |
| 22 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中なるべくフロアにて過ごしてもらえるよう職員さんが様々な取り組みや声かけで雰囲気づくりに努めている。 | | |
| 23 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 終了後も気軽に電話で様子を聞いたり相談を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 24 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話の中で、外出支援等の行き先を検討し実施している。普段の生活の中で 特に困難な事例等は引き継ぎ帳を利用し、毎朝の職員朝礼にて傾向と対策を検討している。 | 利用者の今までの生活を把握し、日々の暮らしの中での会話や様子を個人記録や心身の情報シートに記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や言動から推し量り職員間で話し合い、本人本位に検討している。 | |
| 25 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人さんに早く新しい環境に慣れて頂く為と事例が困難になって対応する事のないように 入居の際 御家族からしっかりと情報収集を行い事前に職員間で情報の共有を行っている。 | | |
| 26 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現状が維持出来ているか等、毎日職員さんが個人記録に記入している。現状維持の低下が見られたら引き継ぎ帳を通じ 職員朝礼時や施設内研修時に把握 検討している。 | | |
| 27 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人 御家族等の要望を反映した介護計画と担当職員さんの意向を踏まえ、全職員さんの足並みを揃え 介護計画を元に施設内研修時モニタリングを行っている。 | 本人や家族の要望、医師の意見などを参考にして職員で話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6か月毎に見直しをしている。介護計画の中にリハビリ確認表をとり入れ、支援時の共有化を図り、毎日チェックをして、次の介護計画につなげている。 | |
| 28 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員一人一人が個人記録に細かく記入し情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。 | | |
| 29 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外出支援が天候上中止となっても 後日職員さんの思いや意向でその日の朝礼時決定し実行したり、突然の幼稚園からのお誘いなど 柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 音楽療法 相談員 日本舞踊 小学生 幼稚園児 美容師(2ヶ月1回) マッサージ等 地域の人と触れ合う機会を設けている。 | | |
| 31 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医の説明と共に、日々の健康相談 受診 緊急時の往診 入院時の紹介状等、すみやかに出来るよう日常連携している。 | 利用者や家族の希望するかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医として受診の支援をしている。専門医や他科受診は家族の協力を得て支援している。急変時には24時間いつでも協力医療機関に相談し対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。 | |
| 32 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師に報連相を確実にした上での介護を職員さん全員心掛けています。毎日の朝礼時 日中 夜間と実行されている。 | | |
| 33 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した場合 病院のケースワーカーさんと連絡を密に行い 面会しては状態 状況把握に努めている。 | | |
| 34 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 御家族の思いも大きく揺れ動く終末期において 御家族の要望を踏まえ 職員の介護力の向上家族との連絡体制や医療連携等 検討や準備を行い安らかに旅立ち 御家族が悔いを残さない様 出来るだけ付き添って頂いている。 | 契約時に重度化や終末期における対応について家族と話し合っている。実際に重度化した場合は、家族、医師、職員で話し合い、情報を共有して支援に努めている。家族が付き添いながら、看取りができるように支援をしている。 | |
| 35 | (15) | ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。 | 事故を未然に防ぐ為に毎朝の職員朝礼にて報告 支援 介護方法等皆で共有して申し送り帳等活用している。年2回の消防署立ち会いの応急手当 ・救命講習への参加を行っている。実践は介護職員に取り組んでもらっている。 | 事故・怪我・ヒヤリハット・苦情・要望対応表に記録し、対策を検討し、1カ月後の状況把握までを記録して、再発防止に努めている。個人日誌で服薬を確認し、不穏・徘徊対応分析表で離脱防止に取り組んでいる。内部研修で誤嚥への対応を学び、消防署の応急手当や救急救命講習に参加しているが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。 | ・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 自治会にて、災害に対する協力は全面的に協力して下さるとのこと。職員さんは施設内研修、避難訓練において想定 対策 対応等話している。 | 年2回、日中、夜間を想定した火災時避難訓練を職員間で実施している。毎月、緊急通報システムの訓練を行っている。自治会の協力や消防団の協力による訓練などを今後の取り組みとして検討しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。 | ・地域との協力体制の構築 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 37 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言動ともども 肉親 自分に置き換えて介護する様に職員さんには何度も伝えている。 | 利用者を人生の先輩として尊重して支援を行うように努めている。職員は、利用者の気持ちに添う言葉かけや対応を心がけ、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。 | |
| 38 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 普段の会話 レクリエーション等を通じ 自己決定を尊重できるような事を 職員さんが頑張っている。 | | |
| 39 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員さんの心のゆとりが、他の人のペースにあわせることが出来たり、事故防止 チームワーク等につながる事を伝えている。 | | |
| 40 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者さんに対する身だしなみへの関心 興味が無くならないよう 気をつけ 褒める声かけを職員さんは行っている。衛生 健康 身だしなみは毎日 気配り、目配りしている。 | | |
| 41 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 卓上テーブルに花を飾り うつりゆく季節感を味わい会話しながら食べ お菓子づくりや、施設内でのイベント等の昼食作りを利用者さんは喜んで行ったださる。食事の支度や 下膳出来る人は自分でおこなう様毎日の目標としている。 | 昼食と夕食の副食は配食を利用し、朝食と三食のご飯と汁物は事業所で調理している。利用者とは同じテーブルで会話しながら食事をしている。毎週金曜日は手作りの日でカレーなどを利用者と職員が一緒に作っている。野菜の下処理や下膳など利用者は出来ることを職員と一緒にやっている。お菓子担当職員がお菓子づくりを計画し、皆で作って楽しんだり、外食に出かけるなど、食事が楽しめるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 飲み込みの悪い方には細ミジン食 トロミやミキサー食として出来るだけ自力で全量摂取して頂き 残量を介助している 等 しっかりと職員間で伝達 ・支援と行えている。 | | |
| 43 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後 休憩後の口腔ケア—しっかりと1人1人取り組んでいる。 | | |
| 44 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄表に記入し パターンを知り 声かけ 誘導し個別のオムツをどれにするか話し合い柔軟に対応 出来ている。 | 排泄表に記録して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄が出来るように支援をしている。 | |
| 45 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 動かない生活でなく、1人1人にあった お手伝い 歩行 体操と毎日取り組んでいる。献立によってはおやつ時バナナ ヨーグルトもよく使っている。 | | |
| 46 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 職員さんの勤務時間の都合もあるが、今の季節 午前中に入浴時間があり 基本の入浴日は決まっているが、強要はせず誰かと変更するなど柔軟に行っている。入浴剤も使い喜んでもらっている。 | 月曜日から金曜日の10時から12時の間を入浴時間とし、土曜日と日曜日は足浴をしている。週3日入浴が出来るように支援している。入浴したくない場合はタイミングをずらしたり、隣のユニットの風呂を使ったり、日にちを変えて対応している。リフト浴を設置し、車椅子でも入浴が可能となっている。 | |
| 47 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中 確実に覚醒して頂く という支援ではなく休息があれば夜間良眠して頂く為に、いつも以上に体を動かして頂けるよう散歩や布団干しを行い支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人記録に内服薬チェック欄があり 職員さんに利用者さんが今 飲んでる薬を話し 確実に服用してもらうよう手渡しで見守り 症状の緩和を図っている。 | | |
| 49 | (21) | ○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 気分転換の外出支援 趣味の畑仕事・盆栽・料理の下ごしらえをして頂き 嗜好品(お酒)も少し飲んでもらっている。相談員 ボランティア等受け入れレベル低下しないよう1人1人に合った会話に気配りし 楽しめている。 | テレビ視聴、DVD視聴、新聞や週刊誌を読む、ぬり絵、ちぎり絵、カルタ、トランプ、ホワイトボードを使った頭の体操、読み聞かせボランティアによる紙芝居、ボール投げ、お手玉、風船バレー、音楽療法での歌や踊り、草ひき、盆栽の手入れ、水やり、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付けなど楽しみごとや活躍できる場面作りをして、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。 | |
| 50 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 第二の我が家と理解し レベルに添った外出支援・買い物・散歩等 柔軟に取り組んでいる。 | 近くの散歩、お寺の花祭り、普賢祭り、季節の花見(梅、紫陽花、見紅葉など)や地域の行事、ドライブ、外食、買物等に出かけている他、桜や菜の花の花見では、利用者の馴染みの場所を聞き、東善寺、米泉湖、下松スポーツ公園などそれぞれの利用者の思いでの場所へ出かけているなど、戸外に出かけられるように支援している。 | |
| 51 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 毎月 御家族から本人さんへ利用料を受け取り、本人が支払に來たり 精神に問題があり お金所持が本人の安定剤になっている方もおられる。 | | |
| 52 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人さんと御家族との葉書のやりとり 中には携帯電話を自分で持っている利用者もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 施設の構造が広く柔軟に対応できる。机の上には季節のお花を、職員さんも気に掛け持参して下さる。又 トイレ内に消臭機を置き、清掃に気を付け暑くなれば網戸にし風通しをよくしている。 | 木造平屋造りの2ユニットが廊下でつながり、自由に行き来できる。2ユニットの中央に、利用者が家族や友人、知人などと談話できるソファを配置し、廊下から庭にある多くの盆栽を眺めることが出来る。各ユニットにテレビ、テーブル、ソファ、椅子を配置している。リビングの窓からは小学校の校庭や木々が見え、ウッドデッキに置いた雀の餌台や巣箱の周りで餌をついばむ雀の姿を見て楽しんでいる。テーブルには季節の花を飾り、温度や湿度、換気、音などに配慮し利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。 | |
| 54 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間が広く 活用出来ている。 | | |
| 55 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 思い出のある写真 寝具等 持参され 各部屋のボードに面会時の写真を貼ったり衣装ケースごとに種類別の名前を貼り使用時分かるようにしてある 暑くなれば網戸にして風を通し 居心地の良い空間の演出を心掛けている。 | ベッド、寝具、衣装ケース、ハンガーラック、鏡台、テレビ、椅子、衣類、時計、ぬいぐるみなどを持ち込んでいる。ボードに思い出の写真や家族の写真、便りなどを貼ったり、手づくりの作品を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。 | |
| 56 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 部屋の入口に名札を掛け、各所に手すりがある。 | | |

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム おかでら荘

作成日: 平成 26 年 11月 25日

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | ○事故防止の取り組みや事故発生の備え ・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続。 | ・夜間等 看護師が不在になっても、すぐに応急手当・初期対応等がチームとして早期対応できるようになっておく。 | ・毎日の個人記録・連絡ノートにて不穏になったことを記入し、毎朝の朝礼にて話し合い対策を検討し、それらがヒヤリハット・事故対策として記録をまとめるようにする。 ・応急手当・初期対応を先輩や看護師に教わり危機管理能力を高めておく。 | 1年 |
| 2 | 36 | ○災害対策 ・地域との協力体制の構築 | ・将来 地域の一員としてのおかでら荘 認知症施設を理解して頂け、災害の際はすぐに地域住民の協力が得られるように努めたい。 | ・施設内行事への地域住民の参加と 地域行事への参加を積極的に行い 地域との親近感を感じて頂ける様 努める。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。